

Bグループ 『市民の地球温暖化に関する意識を高める 効果的方策の提案』「エコ活」プラス」

米山 充 港北区 地域振興課長
鈴木 豊治 青葉区 ②の地区環境担当課長
宮谷 敦子 資源循環局 3R推進課長
黒田 浩 建築局 企画課長
秋山 禎治 道路局 企画課都市計画道路担当課長
近藤 博幸 水産局 計画課長
萩島 尚之 環境創造局長 (コメンテーター)

1 はじめに

地球温暖化対策は、緊急かつ長期的課題として国家間での議論が頻繁に行われている重要課題である。そして本市においても、環境モデル都市として種々の取組を積極的に進めているところである。

一方、地球温暖化対策に関する市民の意識であるが、一定の関心はあるものの、本市の施策や計画を知っている市民の割合は低いという現状がアンケートにより確認された。このことから、環境モデル都市として取組の実効性を上げるためには、市民の問題意識を高め、施策に対する理解・協力を進める必要があると考え、研究テーマとした。

2 ヒアリングと現地調査

本市所管部署、地域で環境行動に取り組み2つの市民団体等、合計5団体に話を伺った。

- ①地球温暖化対策事業本部
意識の高い市民に加え、より多くの市民の関心を高め、行動を広げていくことが重要である。大人には「子供たちの将来のために」「子供には将来の自分のこととして」「取組を促していく必要がある。
- ②教育委員会事務局指導企画課
「環境教育の授業時間が十分に確保できていない。」「教諭のスキルによって内容の充実度が変わってしまう。」「また、「行政の支援が十分ではない。」などの課題があることを感じた。

③瀬谷エコワンクラブ
共同運営の巨大な生ごみコンポストで家庭の生ごみからたい肥を作り、それを地域の緑化に活用するという循環のループを広げているグループ。「市民が誇りに思える」ことが重要という指摘をいただいた。

④あおば発エコ大作戦実行委員会
環境に関する啓発活動に取り組む市民グループ。一人ひとりが得意分野を活かし、一つのイベントを実施していく行動力を感じた。

⑤汐見台中学校
先駆的な環境教育に取り組んでいる学校。全ての学校の環境教育の取組水準が上がるよう、内容のサポートとスタッフのスキルアップが必要であると感じた。

3 現地調査で考えたこと

①意識の高い市民に加え、より多くの市民に向けた施策を拡げる必要がある。②大人、子供双方への働きかけが必要である。③誰にでもでき、誇りに思えるような楽しい取組を提案する。④NPOや、企業と連携する。⑤学校現場には、環境教育に関する情報提供、コーディネートなどの面で支援が必要である。

4 施策提案

(1)大人向けと子供向けの二つの施策
中長期的に続く地球温暖化対策を支え協力していただく市民の応援団を増やしていくために、より多くの市民に行動を広げる取組と、10年後20年後を支える小中学生のための取組の二つの施策が必要であると考えた。

(2)大人向け施策の方向性
すそ野を広げるための「簡単に、やらされ感なく取り組め、市民の意識を高めるきっかけになる小さな取組」を提案し、施策の方向性を以下のように整理した。

ウ. 成果が目に見えて、エ. 誇りが持て、オ. 地域団体や庁内が協力しやすい

(3)大人向け施策の提案

「エコ活」プラス キャンペーン
この5項目を踏まえて提案する施策は、楽しみながら小さな環境行動に取り組み、市民の意識を高める「エコ活」プラス キャンペーン。横浜を区局あげて盛り上げ、市民に向けて発信する。

(4)子供向け施策の方向性
地球温暖化対策では、将来を担う若者、特に小中学生に対する取組は特に重要である。そこで、教諭の能力に依存せず、行政や企業の既存の環境教育プランを活用して、学校の環境教育をサポートする施策を提案する。この施策の条件を以下のように整理した。

ア. 分かりやすくシンプルで、イ. 楽しく無理なく続けられ、

ア. 子供たちが理解しやすく
 イ. 子供たちの興味を引く
 ウ. 先生の力量に左右されず、
 エ. 学校の負担が少ない

(5) 子供向けの施策提案
 ～子供向け環境教育パッケージプラン～

行政機関及び企業等が提供している、小中学生向けの環境教育に関する既存の講座や教材（「環境教育プランと称する。」）を把握し、学年別、教科別にわかりやすく分類・整理し、学校が活用しやすいパッケージにして提供する（図2）。

5 ニつの施策と市民をつなぐもの

以上のように、大人のための「簡単に、やらされ感なく取り組めるような、市民の意識を高めるきっかけになる小さな取組」や、子供たちのための環境教育のパッケージプランを提供することにより、市民の理解が着実に進むのではないかと考えた。

併せて、取組をより確実に進めるため、区役所に窓口を設け、様々なアドバイスやコーディネートを行うなど、施策を「手に取りやすくする」工夫も望まれる。

6 最後に

この調査季報が発行される3月下旬頃、COODO30に次ぐ計画、「横浜市地球温暖化対策実行計画」も公表される予定である。

その中で、基礎自治体である横浜市は削減数値とダイレクトに結びつきにくい市民への啓発、教育をどのように行い、何を指すのか。

より厳しさを増す財政状況を中で、多大な財源を必要とする温暖化問題に、納税者である市民がどこまで危機感を持ち、向かっていくかは問題解決の成否にかかるといえないだろう。

か。このようないかから、私たちは市民の「意識」という

つかみどころのない課題にチャレンジし、その結果、この問題の難しさを再確認することとなった。果たして私たちの提案がうまく機能するのかが否かは未知数であるし、実際、市民をその気にさせるのは難しいものである。しかし、市民とともに協働を進めてきた横浜市だからこそできることがある。私たちはそんな思いを持っている。

図1 「エコ活。」プラス 概念図

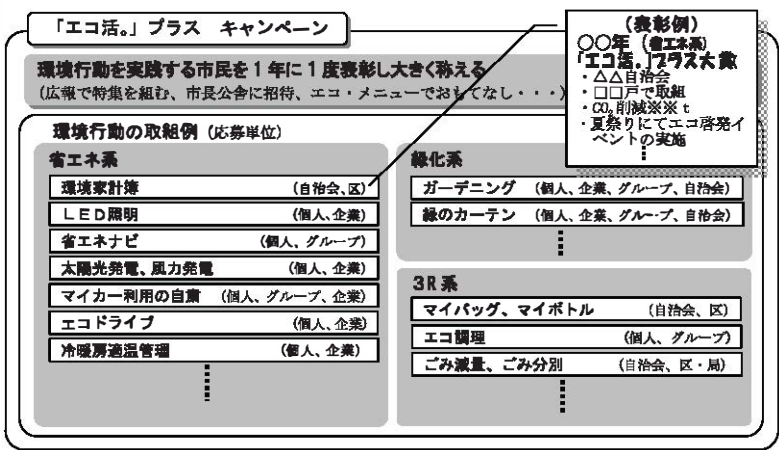


図2 環境教育パッケージプラン（イメージ）

実施されている環境教育プラン

横浜市地球温暖化対策事業本部（小中学校で YES!）、横浜市環境創造局（環境教育「出前講座」）、環境省 & 文部科学省（環境教育・環境学習データベース ECO 学習ライブラリー）、環境省（授業に生かす環境教育）、国立教育政策研究所教育研究情報センター（教育情報ナショナルセンター（NICER））、電気事業連合会（エネルギー教育実践事例集）、企業（三洋電機(株)、パナソニック(株)、東京電力(株)、東京ガス(株) など

環境教育パッケージプラン総括表				
対象学年	1時限	2時限	...	n時限
中学3年	J3-1-1	J3-2-1	...	J3-n-1
	J3-1-m	J3-2-m	...	J3-n-m
1年	J1-1-1	J1-2-1	...	J1-n-1
	J1-1-m	J1-2-m	...	J1-n-m
小学6年	E6-1-1	E6-2-1	...	E6-n-1
	E6-1-m	E6-2-m	...	E6-n-m
1年	E1-1-1	E1-2-1	...	E1-n-1
	E1-1-m	E1-2-m	...	E1-n-m

★実施内容シート(例)

整理番号	E5-2-i
タイトル	森林と環境～温暖化を防ぐには～
出典	環境省（環境に生かす環境教育）
学年	小学校5年生
教科	総合（関連：国語）
分野	エネルギー・地球温暖化
実施方法	講義と実習
内容	①温暖化について知る。 講師より温暖化の原因と状況の話を聞く。 ②樹木のCO ₂ 吸収量を計測する。 校庭の樹木のCO ₂ 吸収量を計測するとともに、児童たちの吐き出すCO ₂ と比較し、樹木の大切さを認識させる。 ③自分たちができることを考える。 を守ったり温暖化を防ぐために、自分たちができることを話し合い、メッセージにする。
所要時間	2時間